

津高同窓会報

発行所
津市新町3丁目1-1 校局
津高等学務
同窓会事務局
0592-28-0256
共立印刷株式会社

新体育館完成間近

6面
服部四郎手記……………2面
百年を迎える津高
親友会……………3面
三重校部会総会案内……………4面
母校のクラブ活動……………6面
異動……………7面
山路芳久母校訪問……………5面
津高同窓会「ナイ」案内……………8面

懐子の志念

津高の校歌「眼をはなつ布引は」の作者である山「懐子の句」との出あい、ふと手にした文集の中の処女作「学問のさびしき」



同窓会長 吉原一真(昭和8年卒)



自身の思い出に、「法律の学問」というものは厄介な学問である。味もつけもなくさびしきとした学問である。とりわけ、試験の前に片仮名で書いた法律の本を見ているときは、たまらなくいらぬさびしい気持ちになる。外へ遊びに行けず、自分で自分を下宿の一間に閉じこめて、勉強していると夜が更けるにつれてあたりがしずまりかえって寒さがひしひしとせまってくる。もうそうだと法律の勉強などさびしくてしょうがないが、さりとて勉強をやるわけにも行かず、ひとりさびしさを、じつとこらえて勉強をつづける。見ると火鉢の炭火はすっかり真白くなっているのだから、炭取りを寄せて炭をつく。

後年、この句が気に入って山口先生にお願いして色紙に書いてもらった女子学生が、その学校の校舎というのには「学問のさびしき」という意味だろうと言われた。山口先生も「学問といものはさびしいものだ、もつつかしてつて



ご挨拶

学校長 袖野貞二

津高同窓生の皆様ご機嫌いかがお過ごしでしょうか、年に一度のご報告ですが、この会報でのご案内をさせていただきます。大変のすみにしております。おしからず初冬、あたためたい日射しにそわされて運動場のほうを、一まわり歩き、津高を、内から外からいろいろな角度で、しかも、大きな視野で眺めることが大事か

者五人が、バレー氏英文万国史の一節ノロモン大王の事蹟を、あたかも巡幸された明治天皇に英語で講演した。ノロモンの栄耀も、野の白鳥の前にいかにあはれないものであるか。明治の先賢たちは知っていたのである。明治中期津中の先生だつた藤島武二が描いた管楽公園の構えをはじめ、つづいて、筆張りの観音さんの夏の夜の風物詩、赤・黄等の氷水。やがて旅行列の行進曲に、中学生も女学生も国家の要請にこたえようと、たたきつたあけくれを経て、終戦の日を迎える。

「学問のさびしき」に堪へ炭をつぐの生活そのものであり、決してなややかなものではなかったの

いやな先生

早稲田大学文学部教授・作家 駒田信一(昭和6年卒)

「やられた!」と思ったのは、私が「寺尾氏」に似たいな先生のことに触れず、伊藤太郎先生や野村岳陽先生のことを、つまり「寺尾氏」のようではない、いい先生のことだけを書いたことに対してである。もし山本さんが私のその文章を読んで、こんな先生ばかりではなからう、いな先生もいたらう、と私にいったならば、私は、もちろんいな先生もいた、と答えるよりほかにない。だから「やられた!」と思ったのである。だが、私にだつて山本さんに対して言ひたいことがある。いな先生ばかりではなからう、と、ところが山本さんはちゃんと逃げ場をつくつていて、「私がめぐりあつたのは寺尾氏に似たいな先生だ」と書いてあるのである。笑わぬでもなし、である。

「やられた!」と思ったのは、私が「寺尾氏」に似たいな先生のことに触れず、伊藤太郎先生や野村岳陽先生のことを、つまり「寺尾氏」のようではない、いい先生のことだけを書いたことに対してである。

「学問のさびしき」に堪へ炭をつぐの生活そのものであり、決してなややかなものではなかったの

「やられた!」と思ったのは、私が「寺尾氏」に似たいな先生のことに触れず、伊藤太郎先生や野村岳陽先生のことを、つまり「寺尾氏」のようではない、いい先生のことだけを書いたことに対してである。

(二面より)

のいつと大きく報道され街の話題を賑わせたのをわたしは覚えていた。その時、わたしも庄村君にコピーさせてもらって保存している。もう一冊も外へ出た。木村君の順位も外へ出た。その時トップで入学したのは清宮光雄君だ。これを記しておく。入試の成績順位は学校が各組の組長に任命するときの参考資料にすぎないが、問題にするほどのことでもないが、クラス会で酒の肴にはなる。木村君のそれを覚えておこう。木村君のそれは北端、員弁の稲部小学校から、県内一円のみならず、才学を競った名門校へ入ったんだから並材でないことだけは確かだ。

さて、やつと人を集めた。わたしたちは、甲、乙、丙の三組に編成された。確か服部四郎君は、木村君は丙、わたしは甲ではなかったかと思ふ。それからの五年間、

新學期(二組)は再編されたが、なぜかわたしは木村君と同じ組で机を並べたことがなかった。そんなことも在学中、彼と特に親しくなれなかった理由の一つかも知れない。 当時の津中は、学期末にはその学年全生徒の、学年末には五百余人の全校生徒の成績表を活版印刷して、生徒の全家庭へ送達していた。それは各科目の点数や平均点、席次、出席日数や遅刻、早退回数、そのうら及落しなども印刷されていた。余ったら人権侵害で大騒ぎになるのだが、あのころは成績不振の連中が羨まっていたのだ。わたしは、大正十年四月から大正十二年三月に至る年々末の全校生徒の成績表をコピーしたのを持って来た。それは金子友雄先輩から贈りしたものである。それは、わたしたちが一年から二年へ進級する時の成績表でもあった。

それを見ると、木村君の成績は、一年生から首席でとれた。服部四郎君や数人の級友には及ばないながら、かなり上位の席次である。彼は、特に英語が得意で得意な科目だった。49点、次の成績の92点、その他の科目は80点台だ。一番不得手なのは体育だったが、かなりの体格の67点、そして全15科目の平均が83点である。もし教科や科目、柔道などの体格の目をボツでとって見れば、平均点は平均点と伸び、席次も平均点と上位を占めた。わたしが今この成績表で見れば、津中時代の彼は、いかに抜けた秀才でもなければ、いかに才能の持ち主でもなかった。もういかに才能の持ち主でもなかった。わたしは、四年の学年末試験が終わったときに、わたしたちの前から消えてしまった。二高の受

のテストで驚くほど真面目な態度で文章は、さすがに年輪を感じさせる。経歴も個性的で、級友再発児の思いが、何でもない物を掛けた。わたしは、大満足の成績である。喜寿の頃に第二部を作った。今消息の判つていない会員九十六名は、呆けずには行って行きたい。

友恋し 昭三の集い

昭和三十八年八月十六日に津市新町の洞津会館で開いた。洞津津中を卒業し、昭和三十二年二月一日以来半世紀以上も経つて、当日の出席者は十九名であった。当日の出席者は、昭和三十九年六月卒業時は百六十五名(39年6月発行同窓会誌による)であったから、元気に万難を排して顔を会わせたのは上記の卒業生数の13%強にすぎなかった。

後藤隆之(昭和13年卒)

九月二十四日(十五日)鳥羽シーサイドホテルでの一集り

や写真や印刷物の山、事務員十三名も動員して汗だくで完成した。今回は、写真も文集(八百字)も全く自由だったので、六十名の参加者は、子供時代から現在まで



昭和三十八年八月十六日に津市新町の洞津会館で開いた。洞津津中を卒業し、昭和三十二年二月一日以来半世紀以上も経つて、当日の出席者は十九名であった。当日の出席者は、昭和三十九年六月卒業時は百六十五名(39年6月発行同窓会誌による)であったから、元気に万難を排して顔を会わせたのは上記の卒業生数の13%強にすぎなかった。

友恋し 昭三の集い

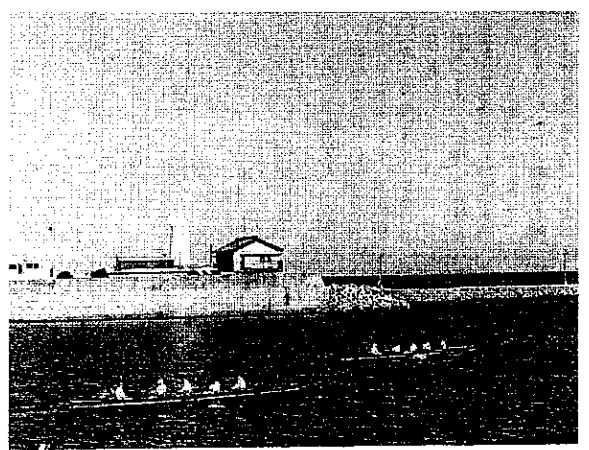
昭和三十八年八月十六日に津市新町の洞津会館で開いた。洞津津中を卒業し、昭和三十二年二月一日以来半世紀以上も経つて、当日の出席者は十九名であった。当日の出席者は、昭和三十九年六月卒業時は百六十五名(39年6月発行同窓会誌による)であったから、元気に万難を排して顔を会わせたのは上記の卒業生数の13%強にすぎなかった。

百年を迎える

津高艇友会

井土熊野(昭和22年卒)

津中・津高をつながらる母校ボート部は、やがてその発祥周年を迎えようとしています。津高艇友会(ボート部OB日会)では、これを記念する諸事業を計画して、その一つに百年記念



昭和59年11月3日 愛知一中OB会との対抗戦・岩田川にて

しかし、ご承知のように母校も、多くの先輩も戦災を受けており、まとまった資料を得ることが極めて困難となっています。委員会は、全艇友会員に対し趣旨を訴え、資料収集のいどぐらにしようかと努力しました。ところが、本紙面をかため、同じく全同窓会委員の皆様をお願いしたいと思います。 母校ボート部に関するどんな情報でもお寄せいただくとありがたいと切にお待ち申し上げます。

昭和26年卒の役員さま

- 去る三月十八日津地区在住者三十八名の出席得ました。前回は、津高同窓会(三)会に委任されました同窓の役員を左記のように決定したのでご報告いたします。
- 昭和二十年(大正十)代役員
- 一、常任幹事 鈴木一生 山田郁子
 - 二、年度幹事 久保嘉章 宮田大介 大西浜子
 - 三、監査 岡田久司
 - 一、津中67回生(昭和20年大正十代) 議員届出 伊藤和廣(常任幹事) 鈴木一生 渡邊伸夫
 - 二、上記の所有者を知っている 有している
 - 三、卒業アルバムを持っている
 - 四、ボートに関係する写真を持っている
 - 五、その他ボート部員の資料等も持っている
 - 六、明治・大正時代の津中の卒業生で親しい人かいる
 - 七、その他の資料も持っている
- 追記 なお、勝平ながら一月末日までにお願います。

高畑校長逝く

伊藤 ミヤコ (昭和15年生)

三重校の六代校長として「張りだ」(気品)「厚立」(厚いモットー)で、私どもを二訓賜下さり、その後は岡山県教育に三原丸、岡山県の名譽県民となっておられた高畑先生の訃報に接したのは、昭和五十九年六月九日(日)でした。九十六歳の二長命でした。

私は三重校部会及びお教えを受けた十四年から二十一年までの皆さんを代表して六月十七日(日)に先生のご葬儀に参列いたしました。大阪から野田郁子様(十五才)広島から羽田ミホ様(十六才)も同道して下さいました。



県民功勞賞を首にかけられた大きなお写真が飾られ、たくさんのお花も飾られていました。私共は先生のお徳をしたら参列者が参加して、厳格な葬儀が行なわれ、お供えて先生の哀痛を心から祈りました。

らお祈りいたしました。ご息女の連子様(昭和十六卒)が、わざわざ、私どもにご挨拶下さいました。思えば、昨年三月三十一日、同窓会及び三重校を代表して賜賜の手帳、リハビリをしておられる先生をお見舞し、又本年三月二十八日、私用で岡山を通った際川崎病院にお訪ねした時、もう寝たきりでしたけれど、柔らかくなった指に、マジックペンをはさみ、「よこ来てくれました」と書いて下さったのが、私の最後の別れとなりました。

三重校部会総会報告

部会長 今村 房 (大正12年生)

本年の三重校部会は去る四月十一日津の洞津会館で開催いたしました。朝から少し曇り空で心配していましたが、お天気に恵まれました。お元気になられた長瀬先生、昔と変わらぬお若さの大河、別所の両先生でした。午前は来賓の先生方のお話を承り、又校歌の斉唱、米實の紹介、柳

60年度 三重校部会案内

三重校部会総会 (創立八十五周年記念)
 とき 昭和60年4月14日(日)
 ところ 津市一身田町高田青少年会館 (総会)
 津市一身田町 高田本山 (逝去会員追悼祭)
 備考 会費、日程等詳細については後日学年幹事を通して連絡いたします。



よみがえる銀杏の木

徳田 静子 (昭和14年生)

山園寮についての経緯があり、閉会し教会いたしました。来年は四月十四日高田本山で慰霊祭を兼ねて開催いたします予定でございます。どうかお誘い合せ多数のご出席をお待ちいたします。

「あの木、こんなにも太くなってたのね」「音響にしてみたら、懐かしい思い出がいっぱい出てくるって感じ。」「黙って私達の行動を、毎日見ていたのね。柳山の運動場に、ぼつんと一本だけ残っていた銀杏の根元の輪切りを美しく磨いて飾り立てて下さったのを見たい衝動で。作者は実校の橋本貞郎(二十七年卒)事務長さんなのです。その上、種をまき、

三重さくらんぼ

傘寿の集い

宇仁田 篤 (大正9年生)

三月十五日有志者集の集いを致しました。私共共五年四月入学の年には津津高の創立五周年のお祝いがあり、草川・湯浅・宇野の四人の先生の十五周年の表形式があり、

し、参加できなかった友の無事を折り目つ、先立たれた方々の冥福を祈念し、いろいろの宝物を拝観して、其下音にきく魚草の盆梅を鑑賞し、清水さんの詩吟、つとり写を傾け、談話のひとときをすごしました。又坂さんがわざわざ持参下さったおうちのぶわのおかげで、疲れを覚える事もなく、楽しい半日をすごし、さわやかな気分午後三時頃お開きとなりました。大変楽しい半日をすごしました。大変楽しい半日をすごしました。

ちなみに月並遊とは、つまり行軍の事で向の予言なくいきなり朝礼のと、今からお弁当を持って運動場へ集合と命令が下ります。皆が白いハンカチに包んだお弁当包み一つも「夏はコーモリ傘を通じて許されません」集まり、

このようにきびしく教え育てられて社会へ出てきていたのだ。私どもは新鮮なほの紅い百二十個の三重さくらんぼでありました。どこへ出しても恥ぢない。重さの裏に背けていたのだ。これらを見て、戦前・戦後のあれが、秋の折りを捧げねばなりません。

三重校東京部会開催

秋晴に恵まれました。十四日、新宿御都心に遷えたつ超高度、三井ビル五十四階のメッセにて、

又、今日集まった方も集まれなかつた方も、皆私達の立派なお友達である事が何より私は嬉しゅうあり、又こんな集まりを持つ事の出来る白うでございませう。

三重校名古屋部会開催

一風変わったせいの蒸し料理を頂いた後、二時頃ガーデンからは近しい東山植物園の第一会場(有志の方)二十名出掛けました。昨年園内に設置された万葉の散歩道をそれぞれのお自由に散策して頂きました。

世界の山路

母校訪問!!

園田 幸男 (昭和27年卒)

九月三日、残暑の厳しい午後(この日は今更、暑い日でした)山路芳久夫妻は、一時帰国の際の訪問のため、母校訪問のため、母校の合唱部を訪れました。袖野校長先生との歓談のあと、合唱部員心づくしの「歓迎山路御夫妻」の歓迎アーチをめぐり、歓迎の音楽室へ先生方、合唱部員の中に入学まで早、合唱部員による歓迎演奏「ゴダイゴ作曲」マトラの風が、編曲先生の指揮で披露。このあと山路さんの挨拶、部員の自己紹介。そして生徒たちからいろいろの質問、懇談が行われました。世界的なオペラ歌手を目の前に見た部員たちは目を輝かせ、山路さんの音楽、高橋生活、音楽の勉強の仕方等いろいろ質問が質問として出され、話の花が咲きました。山路さんは、先ず部員の熱烈歓迎に感激、更に歓迎演奏の素晴らしい大感激でした。最後に、山路さんのお得意のドニゼッティ作曲「愛の妙薬」より、人知れぬ涙を演奏して下さいました。NHKテレビの「ニューイヤーパーラコンサート」で山路さんの演奏は大感激していました。今、目の前でこの熱演に一同心を奪



ミュージーエン国立歌劇場専属歌手 山路芳久氏

私が山路さんの名前を初めて知ったのは、一年前にNHKテレビで放映されたニューイヤーパーラコンサートでした。その時はまさか世界的なテノール歌手である山路さんが三重県の人、ましてや我が津高出身の方だとは、夢にも思いませんでした。

九月三日この日は山路さんが我が母校を訪ねて下さる日です。全ての部屋をひかびかに掃除して、音楽室の黒板には、「歓迎山路芳久さん」と書きました。途中で山路さん御夫妻がやってきました。うちよつとしたハッピーもありましたが廊下で少しお待ち願って、無事、お二人を拍手でお迎えすることができました。山路さんは、テレビで見たよりも小柄でとてもおだやかな、やさしそうな方です。

山路先輩の伴奏をして

津高二年 大 廣 圭 子



三十分くらい山路さんとご夫婦と部員一同で座談会を持つことができました。大音楽家を自前にしてみんな少々緊張気味でしたが、それでも山路さんに外国生活の二

と、どのような練習をされるかなどの質問をしたり、逆に山路さんが私たちにクラブのこと、学校の様子などを話してくれました。いよいよ、その日のビッグイベントとして山路さんの歌を聞かせていただくことになりました。曲目は、山路さんが歌われる代表的な曲「ドニゼッティ作曲 愛の妙薬」より「人知れぬ涙」でした。

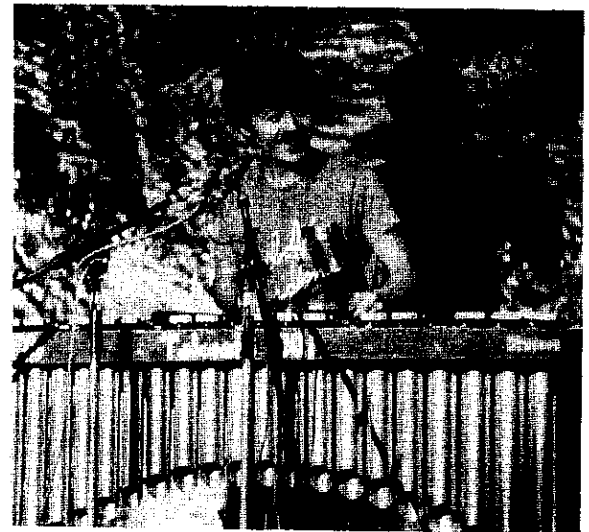
私は、光栄にもその日の山路さんの伴奏を仰せつかった。ふだんピアノの前に座りました。ふだんどんなステージにあがっても緊張しない私ですがこの時はかなり緊張してしまいました。山路さんの声は、はりがありました。私は、楽符を見ていたので山路さんの歌っている姿を見ることができませんでした。だが、何となく目に浮かぶようでした。どうにか無事に曲が終わりました。しかし、私のお腹は、まださめやらず、鍵盤からおぼろした手がふるえ続けていました。

でも、今ふり返ってると一生の思い出になるとも貴重な体験をさせてもらったことにも感謝しています。

山路さんは、こんな有名な世界的なオペラ歌手であるにもかかわらず、身近な感じのする本当に素敵な方でした。この母校訪問も今回限りではなく、帰国された時にはぜひ続けていただきたいと願っています。

大井貴司 (ヴィブラフォン) 5回目の帰郷コンサート

小倉 昌行 (昭和40年卒)



ジャズ・ウィンド・アンサンブル奏者の大井君は私と同じ津の歌仙地区出身です。私の家は日と津の先、海岸通りを少し東へ行ったところ。彼とは小、中、高校を共に学び、そして共に進んだ仲です。

大井君がウィンドアンサンブルとして一人立ちしてからは活動の場が東京と津に分かれ、疎遠がたとなりましたが、彼の方から「地元の人たちに、それも浜山の人たちにホクのジャズを聴いてもらいたい」との語があり、こちらも「やろうじゃないか」ということになって55年帰郷コンサートがスタート。その後、東京・津の「ホットライン」が出来上がり、再び交友が始まりました。

大井君は津高を卒業後、国立音楽大学(東京)に進みました。中学時代の恩師 高田かほ子先生(昭和18年卒)に将来の道を訊ねられ「ホクは音楽をやりたい」と言っただけです。その時、彼は音楽とはいかにそれが好きかという事が重要で、才能は二の次と考えていたようですが、それは謙遜というものでしょう。才能がなければ、ジャズ界で生きていくのは不可能だと思います。

大学3年の頃はウィンドアンサンブルとしてクラブに出たり、卒業してからはジャズ喫茶などで演奏したりして長い下積み生活のあと、ジャズ界の大御所ジョン・ジョーンズに会い出され、ウィンドアンサンブルを止め、アメリカの4大ジャズフェスティバルの一つ、モンテレー・ジャズ祭にも出演、新時代のウィンドアンサンブルとして脚光を浴びるようになったそうです。アメリカで先に名前が売れるとは、メロディン・ジャズがアメリカで売られ、それが日本に輸入されるようなもので、まさに「逆輸入」であることと申せました。

大井君の帰郷コンサートは55年に始まったとはにも述べましたが、それ以降、彼は「グッド・バイ・レイン」や「ドコノアラソフエス」の二枚のアルバムを出しています。変化に富んだ演奏(和にオリジナル曲)は多くの賞賛を浴びました。この「大井ウィンドアンサンブル」を率い、それも生で聴けるようになったことは実に嬉しいことだと思えます。

ことし(59年)は5周年ということですが、三重県文化会館の大ホールを借り、盛大に帰郷コンサートを開きました。この時はマンガ家で歌手としても活躍している水森亜士君なども応援していただき、大きなコンサートとなりました。また、熱烈な大井ファンも駆けつけて、舞台装置、音響、PRなどを惜まらずに折ってくださいました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、来年(60年)からの帰郷コンサートですが、私はスタートの準備がまだできていません。また、この足間コンサートに携わってくれた多くの人のために、少しでも申し訳ないと思っております。そういうことから私は、私の代わりをしてくれる人にこの仕事をバトンタッチできるまでは何とか続けたいかかと考えております。コンサート開催は毎年7月でありました。第6回の開催が決まりました場合、また皆様のお力を拝借させていただきます。この思い、その節は何卒よろしくお願い致します。

新体育館

完成間近

同窓の諸君には、益々ご健勝にて活躍のこと存じます。今回の会報22号の発行にあたり係の方から、新体育館、武道館について現状を、よう連絡があり、ここに報告します。

先づ武道館は、昭和58年11月2日に着工、昭和59年3月29日に竣工し、現在新しい立派なものが建つており、昭和59年4月より奉納に報告します。

道の授業、放課後の部活動に大いに利用されております。旧武道館が昭和34年9月に建てられてから実に25年ぶりに新しく生まれ変わったわけです。

一方昭和29年11月1日に完成した体育館は延々30年がわたって大いに活用されて来ましたが、数年前より老朽にもなると新体育館の建設が話題にのぼり、前次下

校長より県との交渉が続けられ、昭和58年度に、現補野校長の努力によって新体育館の建設が決定し、昭和59年6月30日より着工いたしました。竣工予定は、昭和60年3月28日です。

当初、体育科としては、何拾年に一度の体育館建設であることから、向う何拾年先を慮り、階建ての体育館を要望したのでありますが、県サイドで許可にならず、ならば、できる限り床面積の広いものをという事で県に要望したところ、これも基準外ということで許可されず、結局落ち着いたところは、床面積148㎡、ステーション、キャプション合わせて148㎡(パレーコート四面、バスケットコート二面が

とれる)の体育館が建設中です。現在、秋空に輝き高くこだまして、基礎から立ち上がりにかかっている所です。

今後に残された問題として、せめて中に備える施設器具を、さすが津高の体育館だと言われるように、全国に誇れるものを入れたいと思ひ、体育科員の知恵と経験を生かして、生徒のためになる体育器具を、モットーにして、連日体育科会議を開き、真剣且つ慎重に審議を重ねております。

以上、紙面の都合上、簡単な報告にいたします。

今後とも同窓の皆様方の心強いお力添えを願ひ申し上げます。

鈴山・記(昭和26年卒) 図書部 第28回青少年読書感想



進路指導の現状

進路指導部長 金沢長利

大学入試制度の改革を旨として実施された共通一次試験も6回と回を重ねたが、その間にいろいろな悩みや欠陥が指摘されるようになり、見直しの声が高まっている。

教育が政治の問題としてとりあげられ、臨教審が決定して入試制度も根本的に議論されることになっております。

昭和六十年度は「ゆとりある教育」を標榜した新教育課程によるはじめての入試であって、国立大学においては、選抜方法、一次と二次の配点比率、二次科目の増加など、概ね二次重視の方向で大層に変更されます。又、私立大学においては、従来通りの二教科受験(文系では国・社・英、理系では数・理・英)が主流で、受験科

目の中で多少の増減はあるが大筋では変わりません。

共通一次試験が実施されるようになってから、国立大学が一枚切り現象が顕著になり、一方私立大学ではいくつもの大学の併願が可能であるため、難関校、中堅校ともに競争率がアップして非常に難しくなり、しっかりと足踏地につけた着実な勉強で実力を養成して一月の共通一次試験、二月の私立大学入試、三月の国立大学入試、一次試験へと向かってもらいたいものと念願しています。

最後に本校の過去二年の大学合格者数及び主要な合格状況と、就職者数と主な就職先をあげておきます。(二覧下さい。)

母校のクラブ活動

58・59年の年間文化・運動クラブの主な活動状況を報告いたします。

◎文芸部 近畿高等学校文化祭出品 井上浩(58)

- ◎文コンクール 全国学校図書館協議会長賞 谷口美穂(58)
- ◎演劇部 県高校演劇大会 優良賞(59)
- ◎音楽部 全日本合唱コンクール 県大会 金賞(58) 同銀賞(59) 県アンサンブルコンテスト 金賞・最優秀(58)
- ◎バスバンド部 東海吹奏楽コンクール 銀賞(58) 県吹奏楽コンクール 金賞(58) アンサンブルコンテスト 金賞(58・59)
- ◎電部 オール三重33コンテスト 2位(58・59)
- ◎RC部 青少年赤十字海外派遣団の一員として東南アジアを視察 山崎浩司(59)
- ◎運動部 1 陸上競技部 県立高校春季大会 四百里リレ142秒8。五種競技 井藤房男 3位(59) 国体予選 年生の部 百m 2位 樋口晴(59) 百mハードル 2位 平田仁子(59) 高校新人大会 百m 10秒7.2 二百m 22秒2 丸山充博(59)
- ◎陸上競技部 県立高校春季大会 四百里リレ142秒8。五種競技 井藤房男 3位(59) 国体予選 年生の部 百m 2位 樋口晴(59) 百mハードル 2位 平田仁子(59) 高校新人大会 百m 10秒7.2 二百m 22秒2 丸山充博(59)
- ◎弓道部 県高校選抜選手権大会 男子個人優勝 水谷守(59) 男子団体4位(59)
- ◎バレーボール部(男子) 県高校新人兼西東海選2位(59)
- ◎軟式野球部 県高校春季大会 2位(58) 同春季大会 3位(58)
- ◎県高校総合体育大会 2位(59) 東海大会出場 4位(38) 県高校春季大会 3位(59)
- ◎バスケットボール部(男子) 県高校新人大会 2位(58) 県高校選抜大会 2位(58・59) 全国高校総合体育大会 予選 2位 東海選抜出場(58・同4位(59) 女子) 一年生大会 2位
- ◎サッカー部 県高校新人大会 3位(59) 年間敢闘賞(59)
- ◎体操部(男子) 県高校新人大会 個人総合 4位奥田修(59) 床優勝奥田修(59) 跳馬3位奥田修(59) (女子) 県高校春季大会 4位(59) 全国高校総合体育大会 予選 4位(59) 県高校新人大会 平行棒3位片村恵美(58)
- ◎ボト部 全国高校総合体育大会出場 シングルスカル田岡智明(59) 国体県予選・ナックルアップ3位(59)
- ◎硬式野球部 59夏の大会(第66回)全国高校野球選手権三重大会の記録……
- ①同戦 本校10対0伊賀高
- ②同戦 本校3対0桑名高
- ③同戦 本校2対1松土高
- ④同戦 本校5対3津市高

(大学合格者数)

	国立大	公立大	私立大	短大
59年度	166	18	491	84
58年度	191	17	546	90
57年度	172	21	645	89

(就職者数及び主な就職先)

59年度：14名 58年度：8名 57年度：13名
 国家公務員、地方公務員、電々公社、中部電力、日本鋼管、三重電算センター、百五銀行、朝日生命、東洋信託、大日本製薬、中電工事、三洋ガス

(主要大学合格者数)

	阪大	京大	法大	東大	京大	名大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大	和国大							
59年度	5	5	2	1	0	17	6	4	81	3	5	26	15	14	20	15	25	21	16	17	10	15	19	36	23	24
58年度	5	5	5	9	5	14	5	4	91	5	2	15	15	21	32	11	23	26	14	12	6	14	26	29	25	18
57年度	5	6	4	5	2	15	10	2	82	4	3	39	16	22	19	16	18	33	28	6	10	8	30	58	10	23

◎バスケットボール部(男子) 県高校新人大会 2位(58) 県高校選抜大会 2位(58・59) 全国高校総合体育大会 予選 2位 東海選抜出場(58・同4位(59) 女子) 一年生大会 2位

◎サッカー部 県高校新人大会 3位(59) 年間敢闘賞(59)

◎体操部(男子) 県高校新人大会 個人総合 4位奥田修(59) 床優勝奥田修(59) 跳馬3位奥田修(59) (女子) 県高校春季大会 4位(59) 全国高校総合体育大会 予選 4位(59) 県高校新人大会 平行棒3位片村恵美(58)

◎ボト部 全国高校総合体育大会出場 シングルスカル田岡智明(59) 国体県予選・ナックルアップ3位(59)

◎硬式野球部 59夏の大会(第66回)全国高校野球選手権三重大会の記録……

①同戦 本校10対0伊賀高

②同戦 本校3対0桑名高

③同戦 本校2対1松土高

④同戦 本校5対3津市高

進法勝 本校3対16津市高 萩内・記(昭和28年卒)



お知らせ

六〇年度 津高同窓会パーティー
 一、六〇年八月三日(土)
 パーティー 午後三時より
 三重県社会福祉会館にて
 (津駅東口より東へ三〇〇米)

同窓生の皆さんと母校創立一〇五周年を祝いたいと思います。ぜひご参加ください。

パーティー会費
 ○明治・大正の卒業生の方は無料。
 ○昭和年代の方は三、〇〇〇円
 ○学生の方は一、〇〇〇円

一、代議員会(総会)於津高
 六〇年六月二十九日(土)
 代議員の方にはハガキで後日ご案内申し上げますが、必ずご出席下さるようお願いいたします。

一、津高同窓会美術展
 六〇年七月三日(火) 午後より
 八月四日 (日) 正午まで
 同窓生のすばらしい美術品の出展が予定されています。おさそい合わせの上ご覧いただくようお願いいたします。
 三重県立美術館(県民ギャラリー)
 (津駅西口 徒歩一〇分)

同窓会パーティー報告

筒井忠勝(昭和27年卒)

五十九年度総会は熱気と燃発、友情と母校愛の渦のなかで成功裡に終わったので、毎年盛夏の時期になる。二十七年卒業の私は二十七会昭和十七年度津高卒業生の会と久津会(旧津中の最終入学生)の会で敗戦当時、久居と津に学び舎をもったため久津会と土俵戦先

生が命色の世話係を拝命?して会という重要なポストをい渡されいるので、毎年盛夏の時期になる。同じ津市議員であり、後輩の中根章、小倉昌行両議員の助力で忙殺されてきた。つまり、どうして同窓会総会にその次に、大先輩方の前でマイクをもつことだったが、これは、その同窓会に、は緊張した。大先輩のまじり目を感じながら総会を交えた時、にわたる事前の準備会で、総会司



美術フェスティバルに作品参加を!!

昭和六十年度は津高創立百五十年にあたり、それを記念して津高同窓会では美術展を行います。皆様の出展とお揃いでの鑑賞を待ちたいしております。

一、趣旨 文化的な趣味を通じ同窓生の親睦と交流をはかり、併せて、地域文化の向上に寄与する。
 一、展示会場及び期間
 一、趣旨 文化的な趣味を通じ同窓生の親睦と交流をはかり、併せて、地域文化の向上に寄与する。
 一、展示会場及び期間

三重県立美術館・県民ギャラリー
 一、昭和60年7月30日(火) 8月4日(日) 正午まで
 二、展示作品の範囲 絵画・油彩・岩彩・水彩画など・彫刻・工芸・写真・書
 三、出品資格 津高同窓生及び客員(プロ・一般)にシベルとして取り扱う
 作品は、新旧未発表を問わず。
 一、作品の規格
 第一部門 絵画: 20号以上で額装のこと
 第二部門 彫塑: 高さ30cm、巾20cm、奥行20cm以内
 第三部門 工芸: 自由(飾り付けの困難な物を除く)
 第四部門 写真: 半切以上を倍までとし、パネル張りのこと
 第五部門 書: 什寸以上(横〇六〇以上、縦一四八以内で縦横は自由)
 一、詳細の問合せ 出展要項請求先 出展要項は六〇年一月末に出発します。
 〒514 津市新町三二一 津高同窓会事務局宛

津高大阪同窓会

終えたあとのビールは美味は忘れたがたいものであった。
 反省(思)今後の司会進行係は若狭女性を起用する。②会場がやや狭すぎた。飛び入りの卒業生がふえて、いら収容できかねたのでなかつた。③高虎太鼓はすばらしいものであった。④若狭後継者の存在は嬉しかったが、あの会場には首振り収容できなかった。⑤以上、勝手なことを想起しながら、みなさんの意見を求めることにしたい。

第十八回を迎えた津高大阪同窓会総会は、秋晴れの十一月十八日恒例の阪神百貨店クリンルームにて開催されました。来賓として同窓会本部から、吉原会長、徳田伊藤副会長、母校からは植野校長先生、長谷川、瀬田先生、又旧師として今村房、伊藤真彦、森下千雄の諸先生の臨席を得て、学生十七名を含む津高卒が過半数を占め、二百名に及ぶ盛況でありました。余りの盛況に記念撮影を断念せざるを得ない状態で、写真希望の方は、各自スナップ写真をお願いした有様でした。

小津会長(S7卒)の挨拶に会は、吉原会長の同窓会本部の状況、校長先生の母校の近況を伺った後、佐野事務局長(S17卒)から事務局の動き、準備中の会員名簿発行の説明が行われました。更に、十年振り米国から大阪に帰任された松下重徳の竹園敬一専務(S8卒)から、日米関係の比較や、今後国際化に対応するため、若い人は語学力を身につけるようにとの先達としての助言を、感銘深く聞くことができました。又、準備中の会員名簿は六十年

津高京都同窓会

津高京都同窓会は昭和四十二年(一九六七年)八月に発足し、今日まで十八年を経過しましたが、会則にそって毎年秋に定期総会を開催し、同窓生の親睦を図るとともに母校の発展に寄与することを目的としています。

本年度も去る十月二十八日(日)京都市下鴨の生研会館ホールにおいて、第十八回の定期総会を開催したところです。

当会は京都市の関係もあって、絶えず転入の異動がありながら津高、津高女、津中に学んだ会員二百七十名の大台を維持しつづけております。

さて総会は岩田副会長の司会のもと、小西会長の挨拶にはじまり、続いて御多用のところ来賓として遠路わざわざご臨席賜りました本部副会長並びに津高野野校長先生より会の現状、母校の現況等を詳細に御報告をいただきました。

次いで経過と会計報告のうえ無事総会が終了しました。

引き続き「道路建設は長寿願望の産物」と題し、津高S38年の井上短先生の講演をいただき、一同大変興味をもった一時刻でした。土木技術者は環境、景観の破壊者といわれているが………生産様式の変化が景観変化をもたらした。この変化こそ人々の長寿願望の所産では………

次いで片岡先輩の乾杯の音頭のもと懇親会に入りました。

例年のことながら多くの出席は得られませんが、高額の会員からごく若い会員まで幅広い層から男女同数の二十八名におよび大変なごやかに歓談、会も愛嬌にすぎ、最後に津高、津高女、津中の校歌を意気高らかに斉唱しました。

中西・記昭和23年卒)

事務局だより

三月頃に発行の予定です。ご希望の方は、代金一部送料共一三〇〇円を添えて、事務局宛にお送り下さい。

最後に、総会を浩気のある有意義な会とするために、会の運営、招待したい恩師の紹介等、ご意見ご要望、その他連絡事項がありましたら、左記事務局までお申下下さい。

千五百三
 大阪市天王寺区大進一四一九
 (株)大信内
 津高大阪同窓会
 事務局 佐野嘉郎
 (電)〇六・七九一五八
 水谷・記昭和24年卒)

終身会費(六千円)未納の方のみ封筒の表にスタンプを押しました。同窓会の活動資金はこの会費のみに依存しています。ぜひご協力下さい。尚、いきがいに残部があります。

は、売却となりましたが百年誌「あ、母校」、記録資料集「あ、母校」レコード(校歌集)は少し残部があります。

は、売却となりましたが百年誌「あ、母校」、記録資料集「あ、母校」レコード(校歌集)は少し残部があります。

は、売却となりましたが百年誌「あ、母校」、記録資料集「あ、母校」レコード(校歌集)は少し残部があります。

